

重点課題

【課題1】

問題番号1一，新聞記事のリード文の効果について，的確に理解していない生徒が42.9%。

【課題2】

問題番号3一，書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する力が不足している生徒が23.8%。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

問題文や選択肢の読み取りが正確にできていないので，何を問われているか，どこに注目すればいいのか，練習問題などを利用して，問題文や選択肢の文の理解ができるようにする。

【課題2】

該当箇所を正確に読み取ることができておらず，問題の意味も理解していないと考えられる。問題がページをまたぐような場合の読み方を練習し，キーワードやキーセンテンスを読み取ることができるようにする。

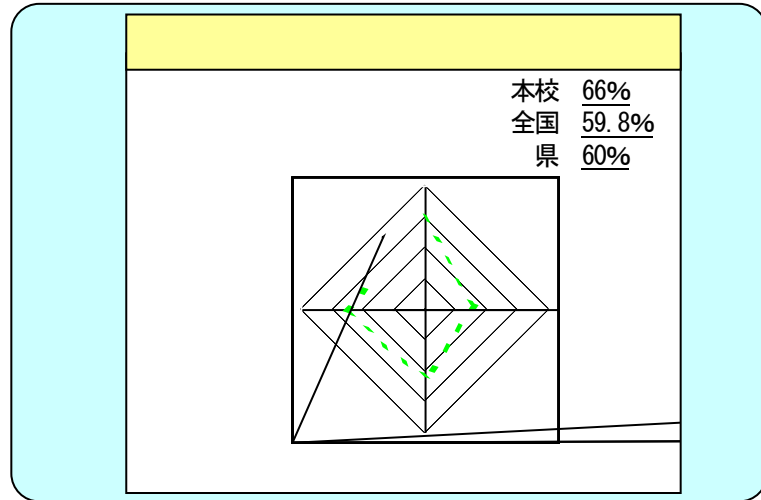


【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年中間テスト等		3年期末テスト等			1年・2年学年末テスト等
目標値		60%		80%			70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年中間テスト等		3年期末テスト等			1年・2年学年末テスト等
目標値		60%		80%			70%
実施後数値							



来年度に向けて



重点課題

【課題1】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。)(問題番号6(2)) 関数 (平均正答率 28.6%) 方程式、グラフを選んだ計 39.2%の生徒が、相手に伝わる説明が書けていない。

【課題2】 グラフ上の2点のy座標の差を、事象に即して解釈することができる。(冷蔵庫 A の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、2点のy座標の差が表すものを選ぶ。)(問題番号6(1)) 関数 (平均正答率 33.3%) 差が総費用を表していると捉えた生徒が 47.6%。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】 グラフや式を用いて、説明をすることができていない。式とグラフの関係を考えさせたり、グラフの変化が何を示しているかを互いに説明し合ったりする活動を設定する。

【課題2】 事象とグラフの関連性について、理解できていない生徒が多い。事象の変化とグラフについて、連動していることを、ICT を活用して意識させ、さらに、グラフの増減や交点が何を示しているか理解させる活動を取り入れた授業を行う。

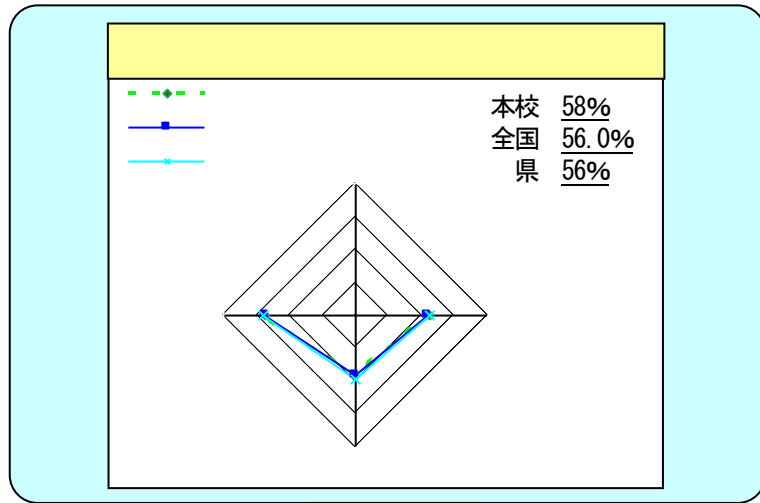
※

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年 中間テスト		1年・2年 期末テスト	2年 H31 全国学力		1年・2年 学年末テスト
目標値		70%		70%	80%		70%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1年 中間テスト		1年・2年 期末テスト	2年 H31 全国学力		1年・2年 学年末テスト
目標値		70%		70%	80%		70%
実施後数値							

来年度に向けて

Blank area for planning for the next year.



重点課題

【課題1】まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる。(チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する)(問題番号7)(平均正答率14.3%)

【課題2】書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。(食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く)(問題番号8)(平均正答率4.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】文章を読み取ることができない生徒が多いため、物語文では誰がどうしたのか、説明文ではA=Bであるという主張が書かれているところを見つけさせるなど、読み方を理解させる授業を行う。

【課題2】資料から何をすべきか理解できていない生徒が多い。また、既習事項を活用することができていない。資料の読み取り方や意見文の書き方を定着させる授業を行う。

※

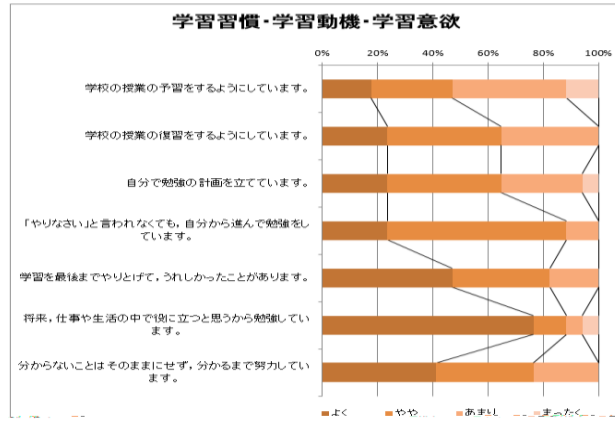
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年 中間テスト		3年 期末テスト			1年・2年 学年末テスト
目標値		50%		60%			50%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年 中間テスト		3年 期末テスト			1年・2年 学年末テスト
目標値		40%		50%			50%
実施後数値							

来年度に向けて

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

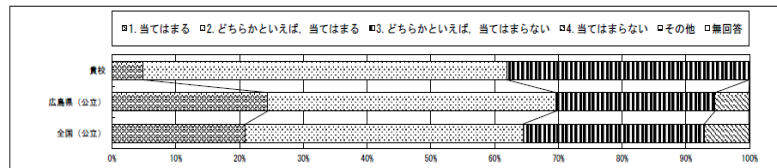
(1) 生活・学習



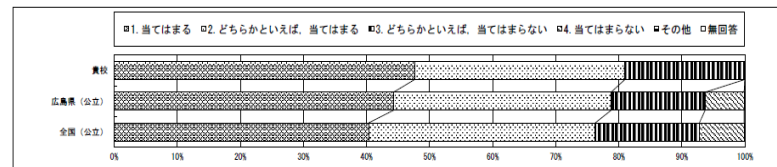
	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
基礎・基本	自分で勉強の計画を立てています。 肯定的評価64.7%	試験計画表を活用し、達成できる計画を立てさせ、学習習慣の改善を図る。	2	80%	生徒アンケート	12月	
全国	自分には良いところがある。 肯定的評価52.4%	学校行事等で活躍の場を増やし、自分の価値を再発見させる。	3	80%	生徒アンケート	12月	

(2) 教科

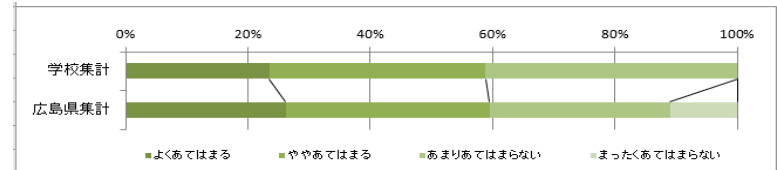
国語の国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか。



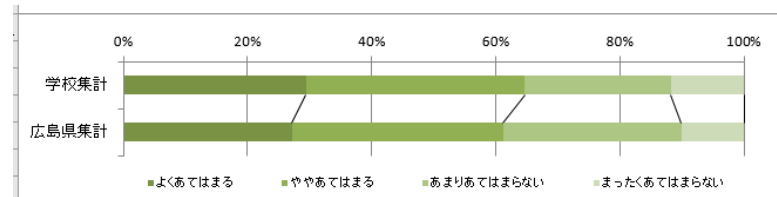
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



理科の授業で学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
国語	基礎・基本 国語の授業で学んだことを普段の生活で使ったり、どのような場面で使えるのか考えたりする生徒の割合が少ない。(肯定的評価64.7%)	課題発見・解決学習を取り入れ、学んだこと、身に付いたことを活用できる場面を実生活の中に設定する。	2	80%	生徒アンケート	12月	
	全国 自分の考えが相手にうまく伝わるように、話の文章や組み立てを工夫する生徒の割合が少ない。(肯定的評価61.9%)	自分の考えを表現する際に、もっと伝わるようにするためには、どう改善するかを考えさせ、話し合ったりする場面を設定する。	3	80%	生徒アンケート	12月	
数学	基礎・基本 解き方や考え方を話し合うときに、理由をあげて説明できていない。(70.6%)	解き方・考え方を班で話し合い、互いに伝え合う場面や、全体で発表する場面を設定する。	2	80%	生徒アンケート	12月	
	全国 数学の学習が、将来社会に出たときに役立つと捉えられていない。(80.9%)	数学で学んだことが基礎となって、社会に役立っている場面を、活用問題として取り入れる。	3	90%	生徒アンケート	12月	
理科	基礎・基本 理科の授業で学んだことを生活で使ったり、どのような場面で使えるのか考えたりしている生徒の割合が低い。(肯定的評価58.8%)	単元の初めと終わりに身近な生活で活用していることを紹介するだけでなく、生活で活用していることが実感できるように工夫をする。	2	80%	生徒アンケート	12月	
英語	基礎・基本 英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話している生徒の割合が低い。(肯定的評価64.8%)	気持ちや意見の伝える話型を教え、話したり書いたりする場面を設定する。	2	75%	生徒アンケート	12月	
	全国 1,2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思っている生徒の割合が低い。(81.0%)	即興で対話する場面や既習事項を活用できる場面を意図的に作る。	3	90%	生徒アンケート	12月	